



発行：日本フットボール協会審判協会関東審判部

〒112 東京都文京区後楽 1-1-8 03-3815-2210

発行人：塩崎貢正 編集責任者：飯島秀男

1998. 9. 22発行 98年度 第1号(通巻21号)

FOA NEWS

HOT NEWS

関東審判部の一員で現日本アメリカンフットボール協会理事長の笹田英次氏がこのほどアメリカンフットボールワールドカップのプレジデントに就任されました。

(詳細は次号に掲載予定)

PAC10クリニックへ2名を派遣

本年 5月に来日された、PAC-10の ヴェール・ソーガン氏のご厚意で、7月10日審判クリニックへのご案内をいただきました。今まで、高校、5人制が主体のテキサスSFOAへは、ダットサン・ルイス氏の紹介により、何人かを派遣してきましたが、大学、それも、米国屈指のカンファレンスでの7人制の審判クリニックを体験できることは、今後の我々の活動に大きく貢献できるものとして、理事会では2名を派遣することにいたしました。

初めての機会のため、部を代表できること、また英語でのコミュニケーション等を考慮して、塩崎部長と、佐藤(浩)教育担当理事に委任いたしました。(理事会)

PAC-10 審判クリニックに参加して

— 塩崎貢正・佐藤浩行 —

98年度の パシフィック10カンファレンス(以下、PAC-10と略す)審判クリニックが、7月30日から、8月2日まで、サンフランシスコ郊外のエアポート・マリオット・ホテルで開催されました。

私達は、7人制、大学を担当する審判のクリニックということで、クリニック内容の勉強と共に、研修プログラムと運営方法、等を理解し、日本での活動に役立たせることを目的に、7月29日夕刻、成田を飛び立ちました。クリニックは、8月2日(日曜日)の昼で終わるため、即、出発すれば、なんとかユーロ・ボウルの開催に間に合うよう帰国できると、強行軍の日程を組むことにいたしました。

以下は、その報告と、感想です。

1. PAC-10 カンファレンス

ご存知のように、太平洋沿岸に位置するワシントン州、オレゴン州、カリフォルニア州とアリゾナ州の有力校10校で構成するカンファレンス。(アリゾナ、アリゾナ州立、カリフォルニア、オレゴン、オレゴン州立、スタンフォード、UCLA、USC、ワシントン、ワシントン州立の10校)

基本的に、9/05から、11/21までの12週間で(一部は、8/30 から、11/28まで)、11-12試合が行われるが、その中で、7-8試合が、PAC-10 のチームとの対戦となる。

2. 審判組織

コミッショナー、トム・ハンセン氏と、コーディネーター、ソーガン氏の下に、6クルー、42人プラス3人の45人が審判員として所属している。サポート機能として、OBで構成する14人のオブザーバーと7人のテレビ・テクニカル担当がある。

審判員の年齢は、35-55(60)歳位で、欠員ができた時に、メンバーが他のカンファレンスで活躍中の人を推薦して、採用している。また、数年前、57歳の定年制は、廃止された。

運営は、45人のメンバーのうち、6人の地区リーダー(我々のブロック・リーダーか)と、7人のポジション・リーダーが、ソーガン氏をサポートする形で行っているが、実質的には、ソーガン氏が全てを取り仕切っている。

3. 評価システム

審判組織を維持するため、年1回行う50問のルール・テストで、70点以上を採らないと、メンバーから外されることになる。(1回の追試があるが)内容はかなり難しもので、1時間ではチョットきつい。

実際のゲームは、14人のオブザーバーが見て、レポートが提出される。VTRと、ゲーム・レポートでも評価されることになる。

4. PAC-10 クリニック

シーズン中は、クルーで行動するため、このクリニックは、全員が顔を会わせる唯一の機会である。

VTRを使用した、全体クリニックが主体で、反則(又は反則らしき)場面を見ながら全員でディスカッションをし、最後にソーガン氏が結論を説明する形で進められた。同じ場面を、違う角度、スロー・モーション等 3-4回繰り返し見ながらの判断は、全員が納得いくまで行われた。(我々も最近この方法を採用している)

その他、ポジション別クリニックは、メカニクの確認と情報交換の場、またクルー別の会合も行われた。ルール・チェンジの解説は、テストの前日に実施され、テストは早速この内容が出題されていた。

その他に、コミュニケーションを図るプログラムとして、3時間半にも及ぶディナー、スタンフォード大学のゴルフコースで行われた、クルーによるコンペ(希望者のみだが、オブザーバー等、ほとんどが参加)と、たいへん盛りだくさんの内容であった。

最初の全体セッションでは、ソーガンさんが、「5月に日本訪問をされた事を話され、その時にたいへん親切に世話になった」として、遠路はるばる来た特別ゲストとして、私たちをひとりずつ紹介してくれた。

PAC-10のクリニックは、年に一度の全員が顔を会わせるミーティングで、普段、会えない皆が、1年ぶりに会いたいへん懐かしそうに話をはずませる場でもあった。

5. その他

参加者は、米国でも最上位に位置する「PAC-10」に所属し、超一流のチームを審判する、非常に限られたメンバー達の集団で、プライドを持った紳士と感じられた。誰もが非常に好意的で、私達に親しみをもって話し掛けてくれた。また、多くの審判が日本で、Japan Bowl, Mirage Bowl, Coca-Cola Bowl 等の審判をした事、また、在日米軍の審判に教えにきた事、等を話してくれた。その時の歓迎、いっしょにやった審判の素晴らしさ等も数え切れない方たちから聞くことができた。また、特に、最長老のオブザーバー、85歳のDwight Martinさんは、昭和29年に朝鮮戦争で、日本に滞在したことを懐かしそうに話された。

また、カリフォルニア FOAメンバーのひとり、日本のメンバーが記載されているメンバー・ブックを持参し、私の名前を見つけて、サインをするよう要請された。

また、皆が、日本のフットボールについても、非常に興味を持って聞いてくれた。シアトル在住のWalter Wolf氏からは、日本のクルーを派遣してくれたら、めんどくさい見させてもらうとの暖かい言葉ももらうことができた。

6. 参加しての感想

VTRクリニックでのやりとりは、私たちとあまり変わらないように見えたが、ポジション別クリニックでは、中身の濃いやりとりが行われていた。

年一回のルール・テストは、重要で、合格しないとメンバーに残れない事で、組織全体を維持させていると思われる。この部分は、私達、同じ「技術を追求する」集団として、必要性を強く感じた。

ソーガン氏のご好意で、素晴らしいクリニックを見せてもらえたが、PAC-10と、関東審判部とは、組織、環境が大きく異なり、我々が、中身を勉強するために参加することは、費用対効果の面で、毎年実現できるとは思えない。

今、最優先でしなければならないことは、今回、組織・体制・教育方法等、学んだことの中から、関東審判部として参考となる点、必要なものを、できるだけ早く導入することである。

情報の入手については、ソーガンさんを通じて今後も継続して行っていきたい。また、2年後には、またソーガンさんをご招待して、2日間の合宿でより中身の濃いクリニックを実施していただければと思う。

PAC-10 クリニックへの参加については、将来、同じような環境、レベルとなった時点で、お互いのクリニックをオブザーバーとして参加しあえるようになれば、最高である。

忘れ物 09/05(Sat) 第3試合終了時川崎球場FOAマーク付き黒アンダーシャツL寸。

09/12(Sat)東工大におい黒帽子Lの忘れ物がありました。プレッシャーゲージ青学に渡したままの方。

09/19 川崎第二ゲーム黒帽子の忘れ物がありました。サイズL

不明FOAジャンパーNo. 378

SFOA年次会議に出席して

水田 吉春・喜入 博

この度、8月14日からアメリカ・テキサス州のFort Worthで開催されたSFOA(Southwest Football Officials Association、本部:米国ダラス)の年次会議に、私ども2名が出席してきました。SFOAは、主としてテキサス州、オクラホマ州、ニューメキシコ州で活動する審判員の中でフットボール競技の審判を担当するメンバーで構成されている組織です。

今回私たちが出席した会議は、SFOAの98年・年次総会と、来るべき秋のシーズンに備えたルールとメカニクのクリニックからなるものです。毎年8月中旬にテキサス州の主要都市の持ち回りで開催されています。

この会議は、これまで5回来日された前NCAAフットボール公式規則の編集委員D.Lewis氏のご好意により、1990年からほぼ毎年、関東審判部が参加してきた会議です。これまで会議に出席された方々の参加のお世話やその出席の報告を聞き、会議全体の様子は認識していたのですが、初めて実際に参加して改めて我々の参考となる点を実感しました。

同組織は、主に高校の試合を担当する審判員から構成されており、会員数が約4,000名の組織です(構成員の中の何人かが、大学の試合も担当します)。テキサス州の高校だけでも日本全国の高校の数より多く、従って、日本の高校野球の規模をやや大きくした組織と想定すればよいと思います。会議には、この米国南西部の全域から約1,000名が参加した会議でした。一般に、我々から見ると米国人は日本人に比べ実年齢より高齢に見えるものですが、それにしても会議の出席者の年齢構成は高く、関東審判部のクリニックに参加しているメンバーとはだいぶ異なるようです。これも米国人社会での「ボランティア活動を永く続ける」、「審判活動を実生活の一部として確立する」などの意識、背景があるものと感じました。

クリニックでは、この秋から始まる高校のリーグ戦に備えて、公式規則変更の確認、審判員のポジションと視点の確認、プレーの状況に対応した公式規則とメカニクの確認が行われます。ご承知のように、米国の高校はFederation Ruleという高校独自の公式規則を採用しており、我々が使用しているNCAAの公式規則とは異なります。

しかし、米国でもこの地域だけは、高校のルールとして、若干の相違がありますが、NCAAの公式規則を使用しています。そのため日本の関係者が出席してもルール上の違和感はありません。メカニクに関しては、クルー構成は他の米国の地域と同様、5人制クルーを標準構成として採用しており、当然、クリニックも基本的に5人制メカニクの説明となっています。

クリニックは、一つのセッションが75分あるいは90分かなり、同時に複数のトラックが走るものです。また、同一内容のセッションが時間をずらし複数回、実施されるため、同時間帯に自分の参加したいセッションが重なっても他の時間帯での聴講ができる構成となっています。セッションは、ポジション関係が「レフリー」、「アンパイア」、「フランク・オフィシャル」、「バックジャッジ」、「4人制審判員」、「2, 3人制審判員」の6セッションであり、ルール主体に構成されセッションが「パス」、「キック」、「ラン」、「罰則の施行」、「タイブレーク・システム」のセッションでした。

会議期間中、5回のセッション参加の機会があります。全部のセッションに参加したかったのですが、物理的に不可能であり、選択して出席せざるを得ませんでした。また、セッションでは、特別に「6人制フットボール」(6人制審判クルーではなく、「1チーム、6人のプレーヤー」です)のルールの説明もあり、学校の教育活動で採用されているラインマン3名(含むスナッパー)、QB、バックス2名のゲーム紹介が実際の試合のVTRを使用してありました(このセッションのスピーカーは、89年5月に仕事で来日し、東京ドームの試合見学をしたA.Gladson氏です。覚えている人、いますか?)。

それぞれのセッションで紹介される内容は、基本的な事項が主体でしたが、我々にとって参考となる事項も多々ありました。全部のセッションを通しての印象深かった点は、インストラクタのプレゼンテーションの仕方でした。そのテーマに対して、「ストーリーの構築」、「強調すべきポイント」、「資料のまとめ方」、「話し方」等が、いずれも多くの構成員の中から選ばれたスピーカーであるだけに卓越したものでした。

セッションの最後には参加者からのセッションを受けての評価表の記入があり、どのスピーカーも限られた時間内で効果的に理解を得ようとする工夫がみられます。また、出席者が熱心にスピーカーの話を聞き、スピーカーからの問いかけに積極的に反応していました。これはフットボールの会議に限らず欧米での会議の特長と言えますが、会議に参加し、よりよい成果を得ようとの姿勢が窺えます。会議で居眠りしている参加者はおらず、いつもながら感心するところです。

会議の参加者には、過去にフットボールの関係で訪日した人も多いようで、何人かから声をかけられました。ミラージュボウル、コカコーラボウル、ジャパンプール等で、審判員あるいはチーム関係者やスタッフとして来日したもので、殆どの方がその時の日本側の対応に感謝し懐かしく話してくれました。我々を覚えていてくれた人も何人かおり、改めて交流の積み重ねの重要性を認識するとともに、日本のフットボールが、思いの外、米国のフットボール界に浸透している部分もある、と感じました。

米国におけるフットボール審判組織の組織活動に、直接に触れ、体験したことを今後のフットボール活動で活かしていきたいと思います。

以上

98年度総会

去る5月20日(水)機械振興会館地下3階会議室で1998年度総会が開催されました。当日時点の在籍者数203、本人出席41、委任状92、未回答(白紙委任)56、非委任3で総会成立。議長に竜崎氏、書記に玉崎氏、横野氏を選出しました。冒頭、塩崎部長より挨拶があり、審判登録が248人と義務化緩和により20名程度減のこと、ドットソン・ルイス氏招聘、清里合宿の実施、SFOAへの派遣などの教育活動を含む97年度活動報告、同年度会計報告が行われ、拍手で承認されました。続いて98年度の活動計画案、予算案が審議され、97年度活動計画では①全試合における円滑な審判活動と穴空け防止 ②各競技団体との交流 ③ユーロボウルへの参加④教育活動 ⑤教育資料の整備

⑥新人教育 ⑦合宿の実施 ⑧機構改革の実施 ⑨他組織との交流 ⑩アサインメント作業の効率化 ⑪会計処理マニュアルの作成 ⑫年間スケジュールの作成 ⑬部の歴史の作成 —— が提案され、予算案とともに拍手をもって承認されました。

ご結婚

渡辺 信氏 新婦 由起子さんおめでとうございます。

1998. 4. 25ご結婚

訃報

松本裕博氏ご尊父 松本豊儀

1998. 6. 28

櫻井和夫氏ご母堂 櫻井恒儀

1998. 8. 20

米山英雄氏、広昭氏ご母堂 米山きよえ儀

1998. 8. 21

ご冥福をお祈りいたします。

【編集後記】

約半年ぶりで納会以来の発行です。

編集に富田 正之(防大)を加え内容も濃いものにしたと考えています。ご意見ご要望をお寄せ下さい。又、投稿も宜しくお願いします。

次号は、10月クリニックにて発行予定です。

ワールドカップ、ユーロボール、機構改革、新人プロフィール等の掲載予定です。

編集担当：花岡静夫 FAX. [REDACTED]

富田正之 mail [REDACTED]

飯島理幸 FAX. [REDACTED]